

編集後記

科学と仏教思想研究センター長 宮井 里佳

このたび、『科学と仏教思想』2022年「宮澤正順先生頌寿記念論集」を刊行することができました。本冊子は、2016年に土山泰弘前センター長のご発案により、本学学生のための読み物として企画・編集をしたものが始まりです。その後、本センターに多大な貢献をしてくださった宮澤正順先生の頌寿記念論集を刊行する計画がもちあがり、本センターに関わりのある先生方に新たにご寄稿いただいで増広して刊行することとなりました。そのような経緯から、概説的な文章と研究論文とが混在し、記述の仕方も種々各々異なり、分野・内容も多様なものとなりました。また、種々の問題により、刊行が大幅に遅れてしまいました。しかしこうして、宮澤先生の頌寿をお祝いして、松川聖業智香寺学園理事長はじめ皆様のご協力により、『科学と仏教思想』誌の創刊号（2010年）以来の第2号として刊行できたことをありがたく存じます。

科学と仏教思想研究センターは、本学建学の理念である仏教精神を反映する機関として2008年に先端科学研究所内に設置されました。その前身は、松川文豪智香寺学園理事長（当時）が提唱され、牧田諦亮智香寺学園長（当時）を会長に戴いて2002年に発足したソフトサイエンス研究会です。仏教や宗教、科学をめぐる、科学者、宗教・仏教研究者、僧侶らさまざまな立場から議論を行う研究会を行ってきました。2016年より年4回の研究会と年1回の公開セミナーという活動形式が定着しましたが、2020年度よりコロナ禍のため公開セミナーを休止して研究会へと変更し、年5回オンライン形式での研究会を実施しています。従前以上にテーマが多岐にわたり、全国のさまざまな専門家の先生方のご参加を得ることとなり、本センターも新たな展開を模索しています。

科学と宗教にご関心をお持ちの方々に、今後さらなる本センターへのお力添えを頂戴したく、お願い申し上げます。